

平成30年度青森県高等学校PTA連合会発足70周年記念 十和田大会

『次代へ伝える』

『あおもりの未来を創る子どもたちのために』

新緑の奥入瀬が初夏の季節を感じさせる6月8日、十和田市民文化センターに県内各地からおよそ580名が集い、平成30年度青森県高等学校PTA連合会発足70周年記念十和田大会が開催されました。

会場内は熱気に溢れ、上十三地区協議会副会長である竹内貴之氏による開会宣言に続き、中村美津緒大会長から「命」への尊厳と子どもたちが安全に安心して輝ける舞台を作ってあげることこそ私達保護者の役割であると力強い挨拶がありました。

続いて三本木農業高等学校PTA会長である成田一郎大会実行委員長が、今回の発足70周年記念十和田大会の開催に向けた意気込みと歓迎の言葉を語られました。感謝状・表彰状贈呈では、受賞者を代表して青森北高等学校PTA前会長である工藤正興氏に感謝状が、五所川原第一高等学校PTA前進路対策委員長である世永恵美子氏に表彰状が授与されました。

続いて、退任校長を代表して八戸高等学校前校長である久慈恵司氏に感謝状が、八戸工業大学第一高等学校前渉外主任の酒井安久里氏に表



中村大会長あいさつ

彰状が授与されました。最後に八戸学院光星高等学校PTAに広報紙コンクール入賞校代表として最優秀賞が授与されました。

受賞者代表挨拶では、青森県高等学校PTA連合会前会長である若宮佳一氏が、これまで支えていただいた事へのお礼の言葉とともに、「PTA活動を通してあらためて子供にとって親とは毎日の生活を映す鏡のようなものであり、親が毎日の仕事や生活をいかに楽しんでいるかという姿を子供に示すこと、感じさせることが子どもの成長にとってプラスになる。これからの激動の時代、社会のいかなる変化にも柔軟に対応し堂々と生き抜く力を身につけてほしい」と述べていました。

次に佐々木郁夫青森県副知事と和嶋延寿青森県教育委員会教育長、宍倉慎次青森県高等学校長協会会長から発足70周年を迎えた大会についてお祝いの言葉がありました。

佐々木郁夫青森県副知事は、県では「一人は青森県の一番の宝である」との考えで人材育成を進めている。若い人材の県外への流出率が近県に比べても高いことが課題であり、高校生の節目において県内という選択もお願いしたいとおっしゃられました。

和嶋延寿青森県教育委員会教育長は、教育の施策の柱としては昨年に引き続き、一、学ぶ意欲や主体的に探求する力の向上。二、子どもを守り支え安心して学べる教育環境づくり。三、地域の多様な教育資源の活用による地方創生の3つの目標を掲げられました。

宍倉慎次青森県高等学校長協会長からは、子どもたちの為に保護者の方々が教職員と心ひとつに手を携えてPTA活動に頑張っている姿を見せるだけでも、子どもの成長にプラスの影響を与えていると信じている。PTA活動が活発であれば、保護者と教職員とのコミュニケーションの機会が増えて新たな学校の取り組みなどが生まれるかもしれない。それが子どもたちの夢や志の実現に繋がるものと考えていると話されました。

最後に小山田久十和田市長により歓迎の言葉が述べられ、開会式は盛会のうちに終了しました。

(調査広報委員長 三上 智幸)



感謝状代表受賞者 青森北高校 工藤正興氏

記念講演

『人生の教科書』

記念講演は皆さんご存知の平成の三四郎こと柔道家、古賀稔彦氏を講師に迎えて行われました。

スポットライトを浴びながら真っ青な柔道着に身を包んだ古賀さんの軽やかな登場に一瞬、会場が静まりかえった後、盛大な拍手での出迎えとなりました。

古賀さんの柔道との出会いは、小学一年生の時、仲の良かった4人の友達が始まりだそうです。体行ったのが始まりだそうです。体の小さい古賀少年は、試合で負けるたびに悔しくて涙したそうです。その悔し涙と強くなりたいたいのなら他の人の練習してない時にも練習をしないという父の教えが今自分の原点であり、毎朝、早く起きて近くの神社の石段を使い、足腰を鍛えたそうです。やらされる努力ではなく、望む努力を付ける



柔道家 古賀稔彦氏

い為にしなさいが父の教えだったそうです。また、朝練習には、必ず父が毎日見守ってくれたそうです。講演を聴きながら私自身これまで、自分の息子や娘に古賀さんの父のように時間をさいた事があったかと自問してしまいました。皆さんはどう感じた事でしょうか。

講演では古賀さんが崇拜する講道館の創始者である嘉納治五郎先生の柔道の理念(精力善用と自己共栄)についても述べられました。精力善用とは、自分が持つ心身の力を最大限に使うこと、社会に対して善い方向に用いること。自己共栄とは相手に対し、敬い、感謝をすることで信頼し合い、助け合う心を育み、自分だけでなく他人と共に栄えある世の中にしようとする事です。この理念を未来の子供たちに繋げようとして、2003年4月に『古賀塾』を開塾し子供の間形成を目的とし指導に汗を流しているそうです。

現在、世界の柔道人口は、1位はブラジルの約200万人、2位はフランスの約50万人、日本は約16万人で3位だそうです。世界各国から招聘される古賀さんですが、日本にいれば金メダリストの古賀ではあります。日本を出てブラジルやフランスでは神と呼ばれます」とジョークで会場を笑いに包みましました。

記念講演は大会テーマ『次代へ伝え

る』(あおもりの未来を創ることもたちのため)にマッチした内容だったと思います。講演の最後は、『古賀塾』での五訓を参加者全員で会場一杯に唱和しました。

一つ「はいと言う」すなおな心、一つ「ありがどう」と言う感謝の心、一つ「私がします」と言う反省の心、一つ「すみません」という謙虚な心という言葉でした。

今回の(神)古賀稔彦氏の講演を拝聴する機会を得た事に感謝し、未来の子どもたちのためにこれからはPTA活動に取り組みたいと思います。(人は決して一人ではないのですから)

(調査広報委員 松村 茂信)

生徒発表 マーチングバンド

青森県立三沢商業高等学校吹奏楽部

部長 福田 望結

この度は、青森県高等学校PTA連合会十和田大会に私たち三沢商業高校吹奏楽部を呼んでいただきました。誠にありがとうございます。私たちは吹奏楽・マーチングの両方に取り組みでありますが、今回の生徒発表はマーチング(スチング)ドリル)を披露させて頂き



三沢商業高校 吹奏楽部

ました。日頃からどうすればお客様に楽しんで頂けるか考えながら練習に取り組んでいます。今回の生徒発表でもショーマンシップを持って本番に臨みました。

当日は音出しのみでステージでのリハーサルができず、ステージ上でしっかりと動けるか不安があり、同時にとても緊張してしましました。しかし、いざ緞帳が上がるとその不安と緊張も忘れ、笑顔で演奏・演技をすることができました。そして、観客の皆さんからたくさん拍手を頂いたときはとてもうれしかったです。

私たちはこれから吹奏楽でもマーチングでも様々なイベントや大会に参加します。大会では自分たちの目標を達成するために、イベントではお客様に楽しんで頂けるよう日々の練習に一生懸命励んでいます。周囲の方から愛されるチーム、愛される人間になるために、私たちのモットーである「速い・明るい・大きい」を貫きたいと思えます。今回の十和田大会に関わった全ての方々に、改めてお礼を言いたいと思えます。本当にありがとうございます。

生徒発表 ヒップホップダンス

三沢高等学校 Gitter 杏優菜

リーダー 浜 杏優菜

はじめに、青森県高等学校PTA連合会十和田大会において出演する機会を与えられたことに、感謝いたします。

私たちは、ダンスが大好きな3年生10人のグループです。メンバーは初心者から地域のダンス

サークルに参加している人、そしてインストラクターをしている人まで様々です。

高校総体の前でもあり、練習時間は十分にはとれなかったのですが、少ない時間の中で、一緒に振り付けや構成を考えました。動画を撮り練習に参加できなかった人に送るなど様々な工夫をしながら完成させていきました。

ダンスは今、小さな子供から大人まで幅広い年齢層で人気のあるスポーツと言えます。学校では休み時間にアイドルや歌手のダンスをまねて踊っている生徒の姿をよく見ます。今回のパフォーマンスでは現在、高校生の間で人気のダンスを取り入れました。私たちのダンスをご覧になり、流行のダンスを知っていただけたかと思えます。

今回の発表では仲間と何かを作り上げる事の楽しさや、やりがいを感じる事ができました。そしてリーダーである、私についてきてくれたチームのみんなや、このような機会を与えてくださった、PTAの皆様へ感謝しております。私たちGitterは、7月の三沢高校文化祭のオープニングステージでも発表をします。さらにブラッシュアップし、最高のステージにしていきたいと思えます。



『次代へ伝える』
〜あおもりの未来を創る子どもたちのために〜

十和田大会コーディネーター益川毅氏（三本木高等学校PTA会長）の自己紹介、助言者、発表者三名の紹介につづき、研究協議が進められました。以下、要点をまとめてみました。

『親のためのサタデースクール』の実践を通して』
青森南高等学校父母教師会長 阿部 浩志

青森南高等学校では平成22年度より父母教師会が主催し、進路対策委員会が主管して「親のためのサタデースクール」を開催しています。この事業の目的は、保護者が受験に関する知識や子どもに寄り添うための態度を学ぶことにあります。

これまでは年2回、6月と9月の平日の放課後に開催してきましたが、より詳しい内容を、より多くの保護者に知っていただくために昨年度は土曜日の午前中に開催しました。平成29年の参加者数は、6月開催で約120名、9月開催で約70名でした。

内容は予備校講師による入試動向等の情報提供、前年度の卒業生や保護者を招いてのパネルディスカッション、情報共有のためのワークショップ、教育ローンの説明等を行いました。参加した保護

者からは、「入試のしくみがわかった」、「資料が充実していた」、「卒業生の親の実体験を聞けてよかった」、「受験生の親同士で情報交換ができてよかった」等の感想が得られ、開催目的が達成されていると思われました。大学入試改革に向けて今後により充実した研修内容にしていきたいと思いま



青森南高校の発表

『生涯PTA活動』

板柳高等学校PTA会長 三戸 康正

PTAの活動を20年以上行ってきました。活動を通して人のつながりが増え、社会の変化にも敏感になり、子どもとの会話も増えました。私と若い保護者は、年齢が20歳くらい違いますが、引退するまでPTA活動を楽しみたいと思っています。

本校では6月に体育祭を行っています。昨年度は体育祭で生徒たちにアイスを提供しました。生徒たちが先生や親以外の大人と話す機会をつくと同時に、親としても体育祭に参加している実感をもつ良い機会となりました。

10月の文化祭では「PTA食堂」を開いています。りんご農家が多いこの地域ではなかなか保護者が参加できないというのが現状です。そこで準備の負担を減らすために、メ

ニューの簡略化を図りました。また文化祭に合わせて、朝の一声運動も開催することで、別日に行っていた時より参加者が大幅に増えました。この他、清掃活動も行っています。その時その時で楽しく参加できるように気をつかうようにしています。今後は、もつと生徒と保護者が関わる機会を増やしたいと考えています。



益川コーディネーター・白戸助言者

『学びの場としてのPTA～PTA活動を通して子どもたちに伝えられること～』

大湊高等学校PTA副会長 大場 可奈子

本校のPTAの組織はそれぞれの年次委員が担当する「健全育成委員会」「総務委員会」「厚生委員会」と全年度委員からの「母親委員会」で構成されます。学年ごとの委員会の場合、新しいものが生まれる可能性は高くなりますが、引継ぎが難しいという問題もあります。全年度の活動を行っています。会員同士の交流のための「母親委員会」では、会員同士の交流のための紙の作成をし、全学年での構成される委員会の特性を活かして作成ノウハウの引継ぎを行っています。

昨年度、本校PTAは、下北むつ地区協議会主管で行われた下北ジョオパークを巡る研修活動に参加しました。ジョオパークに関わることで、郷土を深く理解する人材の育成、地域らしさの構築、持続可能な社会の形成につながるとされています。子どもたちが自分の生まれ育った地域を深く理解し、誇りを持つことで自信につながります。そのためには、親自身が地域について学び、実践・行動することが必要です。PTA活動は生涯学習の場であると言われますが、一人では難しいこともPTAであれば出来ることもあります。これからも学校関係や地域の方々と協力して子どもたちを見守っていきたいと思います。



発表者のみなさん

大会を終えて

三本木農業高等学校校渉外部主任 北上 守

『次代へ伝える』
 ～あおもりの未来を創る
 子どもたちのために～

のテーマのもと、青森県高P連発
 足70周年記念十和田大会が来賓を
 含め580名余りの参加をいただ
 き、盛大に開催できましたことを
 実行委員会事務局として深く感謝
 申し上げます。これも日々、各校
 のPTAの皆様が子供たちのため

に、PTA活動に取り組んでいる
 成果の表われだと思っております。

今大会は70周年記念大会とい
 うことで、大きな役割を担うことに
 不安でいっぱいでした。また、事
 務局は前年度の準備委員会の段階
 は七戸高校が担当で、本校は3月
 15日の主任会議から任されること
 になりました。年度末の多忙な中



成田大会実行委員長あいさつ

の交代とあって多くの
 課題を抱えながらのス
 タートとなりました。
 それでも、大会実行委
 員長の「大会の成功は
 参加者数が多いこと
 はないが、やるからに
 は多くの人に参加し
 てもらえる大会にしよ
 う」という呼びかけの
 もと実行委員が協力し
 合って各担当の業務に
 取り組んでいただけた
 ことは、大変ありがた
 いことだと感謝してお
 ります。今年度に入っ
 て行われた2回の実行
 委員会では、活発な意
 見が多く出され、様々
 な課題も各校の前向き
 な発言に助けられまし
 た。駐車場は他地区か
 らの参加者を優先させ

るため、実行委員の方々は離れた
 駐車場を利用することにしました
 が、その間を徒歩ではきびしい。
 どうするか。すると、「その送迎
 バスを出しますよ」という十和
 田工業高校、情報交換会場へは、
 「それもやります」という意見。
 そんな雰囲気でも会議ができた
 た。また、上十三地区には事務局
 から参加目標人数を設定しまし
 た。その目標を達成しようと、後
 から後から来る追加のFAXに感
 謝の気持ちでいっぱいでした。さ
 らに、県連事務局の方々にも大変
 お世話になりました。何度もメー
 ルや電話で問い合わせをしました
 が、暖かく的確にアドバイスをし
 ていただいたことにも感謝してお
 ります。

このように多くの関係者のご協
 力で終えることができた大会です
 が、事務局側から見えた大会の感
 想を申し上げます。まずは、物産
 販売を通り、恒例の看板前での記
 念写真撮影。受付では、多くの入
 った返していましたが、受付
 の保護者の手際よい対応。切り替
 え前の時期で会場は冷房が入ら
 ず、前日に知り大慌てでした。蒸
 し暑い中でしたが、それでも開会
 式・表彰式で扇

ぐ人もほとんど
 なく、安堵した
 ことを覚えてい
 ます。記念講演
 は「古賀稔彦
 氏」。開会式中
 に会場入り。リ
 ハーサルとは違

う段取りを指示される
 というハプニングもあ
 りましたが、会場を大
 いに盛り上げ時間オー
 バーして終了。次に生
 徒発表の三沢商業高校
 吹奏楽部は「さすが」
 という一糸乱れずの演
 奏。三沢高校のダンス
 は保護者の世代を捉え
 た内容で会場の熱気は
 さらにヒートアップ。
 研究協議では、発表校
 の取り組みは今後の企
 画の参考になりました。
 コーディネーター
 の益川さんの巧みな進
 行で、参加者は研修を
 積むことができたと思
 います。また、情報交
 換会では大会長をはじめ
 来賓の楽しい挨拶に
 感心し、「エルヴィス

トキ」の歌謡ショーでは会場が
 総立ちとなる盛況ぶり、大変楽
 しい時間を過ごしました。
 十和田大会に参加していただ
 いた皆様、ありがとうございました。
 不行き届きの点が多々あつた
 と思いますが、ご容赦ください。

今回実行委員として大会運営にご
 尽力いただいた上十三地区協議会
 の各校の保護者の皆様のご協力が
 あつて無事に終えることができた
 ことに深く感謝いたします。この
 大会が「次代へ伝える」一助にな
 れば幸いです。



次期開催地区あいさつ

平成30年度 青森県高等学校PTA連合会
十和田大会
 発足70周年記念
 歓迎
 大会テーマ 『次代へ伝える』
 ～あおもりの未来を創る子どもたちのために～
 日時 平成30年6月8日(金)
 会場 十和田市民文化センター



『子どもの命は未来を担う宝物』

青森県高等学校PTA連合会 会長 中村 美津緒

青森県高等学校PTA連合会会員の全ての皆様におかれましては日ごろのPTA活動及び毎日子供たちを温かい眼差しで見守って下さり誠にありがとうございます。

若宮佳一前会長をはじめ今日までPTA活動にご尽力くださいました多くの皆様には、これまでの活動に感謝お礼申し上げますとともに心から敬意を表します。

この度県高P連会長を仰せつかりました青森西高等学校PTA会長中村美津緒と申します。

さて、現在の社会情勢はAI（人工知能）やICT（情報通信技術）の進化はとどまることを知りません。まさしく激動の時代に私達は生きています、生かされております。

その激動の時代の変化についていかにくはないけれども、そういった世の中でも変えてはいけない物、忘れてはいけない物、決して無駄にしてはいけない物が有ります。

それは最も尊い「命」であると私は思います。私達の子どもの「命」は未来を担う宝物でございます。しっかりと育て上げ磨き上げ世の中にお返ししなければいけません。

「子は親の心を実演する名優である」という言葉がございます。親たちがいい服を身にまとい着飾って、人前をつくって上品に暮らしても子どもたちは堂々とつまかくしなく親の心をいつでもどこでも実演しております。

私達大人が疲れて怖い顔を見せれば子供たちは気をつかい小さくなってしまいま

す。逆に大人が夢を持って目をキラキラと輝かせれば子どもたちはその大人に心を奪われ夢を持ち始め明るくなります。

私達は子供たちが明るく楽しい未来を創る為に思いっきり輝ける場所を用意してあげなければなりません。家は、その子供たち名優の小さな舞台であり、一歩玄関を出たその先が子供たち名優の本気に輝ける場所「スターの舞台」でございます。

その舞台を安全で安心して輝ける舞台にする役者が私達保護者であると私は思います。さあ皆さん、私達の子どもの為にあおもりの未来が明るく楽しく輝ける「スターの舞台」をみんなで作りましょう！

どうぞ皆様、各学校を超え地域を超え今日のこの良き日の出逢いに感謝し、子どもと一緒に私達も共に成長しましょう、そして楽しみましょう。私も会長として高P連が益々盛り上がりますように精一杯頑張る所存でございます。又笑顔が絶えない明るい高P連の為に歌って踊れる会長を目指し頑張りますので皆様のご理解とご協力を何卒よろしくお願い致します。

結びに十和田大会の開催にあたり多大なるご支援とご協力賜りました関係各位に深く心から御礼を申し上げ挨拶いたします。

（県高P連十和田大会挨拶より抜粋）

「おやじの会」って!?!? 全校一体一大家族! 五所川原工業高等学校

本校のPTA活動は、執行部と研修委員会が中心となり、積極的に活動をしておりますが、PTAとPTAのOBで構成される「おやじの会」と称する会があります。「おやじの会」は16年前に発足し、現在も活発に活動しております。今回は、本校「おやじの会」を紹介させて頂きます。

PTA活動に積極的に参加した、お父さん方が卒業の際に「このまま皆さんと別れるのは寂しい」「もう少し学校に協力したい」と言う思いで立ち上がった会です。現在、会員数は55名で、どの委員会よりも大所帯です。「おやじの会」はPTAにも学校後援会にも属しておらず、会員からの会費で事業を計画、運営しております。主な事業は3つあります。まず1つ目は

大運動会でのアイスの提供です。毎年、研修委員会が豚汁を全校生徒に振る舞っています。その横に陣取りデザートとしてアイスを振る舞っています。子供達の笑顔に負け、ついつい予定の2段盛りから3段盛りに、最後には5段盛りになってしまうこともあります。生徒もお父さん方も大爆笑。

2つ目は環境整備事業です。平成27年度はサッカー場の大規模な整備をしました。ダンブで土を運んで、重機でグラウンドをならしました。炎天下の作業で流したお父さん方の汗がサッカー場に染みこんだはずです。平成28年度はマイクロボス車庫の扉の改修工事を行いました。シートとワイヤーの単純な構造だったものを、上部にレールを付けアコーディオンカーテン式に改修しました。材料の手配から溶接機械の準備、



おやじの会によるグラウンド整備

3つ目は文化祭でのたこ焼き販売です。「生徒達の模擬店に負けない」と必死に頑張っている姿があります。しかし、精算してみると赤字。原因は、おまけが多すぎる。ことです。大運動会と同じように生徒達の笑顔に勝てないお父さん方です。

このように、「おやじの会」の皆さんは、生徒がより良い環境の中でしっかりと学んでほしいという強い思いで、毎年様々な活動をして下さいます。作業をしながら意見交換や子ども達の進路相談等をしあうこともありますが、その関係はまるで家族のようでもあります。

本校には「全校一体一大家族」という学校標語があります。このスピリットを地で行く「おやじの会」の皆さんです。私達はすばらしい先輩方に敬意を表し、感謝の気持ちを持ちながら日々過ごしていきたいと思っております。そして、地域に愛される五所川原工業高校をめざし、我々PTAも活動を続けていきたいと思っております。

（調査広報委員 平山 正子）

地道が一番の近道

本校は、昨年、高等部が創立八〇周年、中等部は今年度一〇周年を迎えた伝統校である。長らく女子校であったが、二〇一五年度より中・高共に男女共学化し、カトリックミッションスクールの校風を守りつつ、学校の雰囲気が一変された。「部活動の活性化」をテーマに、以前から活発であった放送部や音楽部に加え柔道部や新体操部、そして女子校最後の年に空手道部は設立された。私は小学生の頃から続けた空手を活かせる絶好の機会に大いに心が震えたのを覚えている。

発足当初は選手一名、マネージャー一名の部員で活動場所も音楽室からのスタートだった。それでも二人の部員と毎日、椅子やピアノを片付けて、練習を続けたものだった。現在は創部五年目となり、部員数も二〇名を超え、活動場所も体育館に移り、充実した稽古が出来ている。今年度の県高校総体では、悲願の団体アベック優勝を達成し、中学生も、夏の全国中学生大会への出場権を手に入れている。普段の稽古時間は、平日は二時間、休日は三〜四時間程度であり、短時間で集中し、効率よく成長できる練習メニューを意識している。また、文武両道を目指し、テスト勉強を部員全員で行い、模範生として、周囲をリードできる人材育成にも取り組んでいく。これまで

頑張っています 我が部活

に国公立大学

合格者も数名輩出している。練習メニューは部長や副部長などと相談し作成すること

を心掛けていく。さらに試合のビデオ分析や、チームミーティングを通して、自分たちに必要なことを、自ら見出す力を育むことを意識して指導している。振り返ると高校総体の男子団体は昨年まで辛酸を舐め続けてきた。二年続けて決勝で敗退し、あと一歩でインターハイに届かなかった年が続いた。しかし、その悔し涙を乗り越えて、今年はついに悲願の初優勝を成し遂げることが出来た。女子団体も二連覇を達成。決勝の大將戦を制したのは、高校から空手を始めた三年生だった。中学校まで運動部での経験がない生徒だったが、入学以来、毎日、稽古を積んできた成果が実る瞬間を見た時は心から嬉しかった。



本校の空手道部の歴史は、まだ始まったばかりである。だからこそ、謙虚な精神を忘れず、日々研鑽を重ねていく必要がある。「地道が一番の近道」。これは生徒の成長を通じて私自身が学ばせてもらったことである。たとえ地味な稽古でも、目的を明確にして、しっかりと継続すること。日常生活の中においても挑戦者としての自覚を忘れず、自己を高め続けること。地道なことの積み重ねが、一瞬の勝負に繋がっていることを、今後も生徒に伝えていきたい。

空手道部顧問 岩崎 雄太

校 盟 加 紹

『グローバルハイスクール』

青森高等学校 教諭 當麻 進仁

本校は平成26年度に文部科学省からグローバルハイスクール(以下SGH)に指定されました。SGHとは高等学校等におけるグローバル・リーダー育成を目的に全国から選抜された高校の略称で平成26年度は全国で56校が指定されています。

本校では、青森県ロジスティック戦略を視野に、外国人との交流や共同学習、海外研修、ビジネスモデルの開発を通してグローバル・リーダーに求められる資質・能力の育成と、質の高い語学力や国際的な教養を身につけてもらうことを目標としています。

現在、国際的視点で教育を進める国内外の大学や高校、企業、国際機関等と連携を図り、グローバルな社会課題、ビジネス課題をテーマに横断的・総合的な学習、探究的な学習を行ってまいります。

学習活動では生徒が設定したテーマに関して国内外のフィールドワークを実施し、生徒自身の目で見聞を広げ、挑戦すること求めています。

それでは具体的な取組をお知らせいたします。

【平成26年度】1年生を対象に、各種講演会と企業・官公庁訪問(約90件)を実施しロジスティクスに関する研究とその発表を行った。また、青森中央学院大学留学生や三沢エドグレンハイスクールの交流を実施。

【平成27年度】上記の事業に加え、海外研修(シンガポール)を実施。事前学習として、市内フィールドワーク・ALT/留学生との意見交換・海外クルーズ船乗客へのインタビューを行った。

【平成28年度】語学力の育成を視野に、「第一回青森県即興型英語イベント交流会」を主催。海外研修での現地協力企業は8社に増えた。この年から探究型のプロジェクト学習(ゼミ活動)を開始。

【平成29年度】SGH対象者を2年生の文型生徒全員に拡大。新規に国内研修型プロジェクト学習を展開。この学習は「パーチャルおもてなし」「台湾からの修学旅行生受け入れ」「模擬国連」「バーチャルユースフォーラム」で構成。特に「バーチャルユースフォーラム」は東大をはじめ多数の大学教授やJICAからも高い評価を得ている。更に次世代を担うリーダーの養成を視野に、国連で採択された「持続可能な開発目標」をテーマに弘前大学の学生との交流の可能性について協議。また、台湾の4高校・1大学との協働学習に関する基本合意に至る。

【平成30年度】探究型プロジェクト学習に「持続可能な開発目標」の概念を導入。内閣府国際青年育成交流事業地方プログラム、JICA主催エコツーリズムの企画運営に参画し、これまでの学習を現実の場面で発揮することとなった。この事業ではオーストリア、チリ、アルジェリア、など全11ヶ国から20才〜35才の次世代リーダーが参加する予定である。

【今後の期待】SGHで学んだ生徒達は社会課題に対する関心と深い教養、コミュニケーション能力、問題解決力等の国際的素養を身に付け、将来、グローバル・リーダーとして活躍していくものと確信しております。



シンガポール大学での講義風景

平成30年度 一般会計予算

収入総額 12,719,500円
支出総額 12,719,500円
差引残額 0円

収入の部 (単位:円) 支出の部 (単位:円)

科 目	予算額	科 目	予算額
会 費	8,200,000	事 業 費	6,705,000
内	学 校 割	助 成 費	225,000
		組 織 活 動 費	2,700,000
		研 修 ・ 行 事 費	1,500,000
		負 担 金	1,220,000
		表 彰 費	220,000
		会 報 費	840,000
訳	会 員 割	運 営 費	5,170,000
	県 立 ・ 全 日 制	会 議 費	480,000
		旅 費	2,000,000
	私 立 ・ 全 日 制	印 刷 費	300,000
		事 務 費	400,000
	定 通 ・ 特 別 支 援	通 信 運 搬 費	260,000
助 成 金	500,000	渉 外 費	200,000
繰 越 金	3,519,102	慶 弔 費	60,000
雑 収 入	398	人 件 費	1,350,000
受 取 手 数 料	500,000	使 用 料	70,000
内	自 転 車 総 合 保 険	雑 費	50,000
	高 校 生 総 合 保 障 制 度	租 税 公 課	120,000
訳		繰 出 金	100,000
合 計	12,719,500	予 備 費	624,500
		合 計	12,719,500

平成30年度 特別会計予算

収入総額 9,204,000円
支出総額 9,204,000円
差引残額 0円

収入の部 (単位:円) 支出の部 (単位:円)

項 目	予算額	項 目	予算額
繰 越 金	9,103,740	助 成 金	0
繰 入 金	100,000	特 別 支 出 金	2,000,000
雑 収 入	260	予 備 費	7,204,000
合 計	9,204,000	合 計	9,204,000

平成30年度 委員会名簿

委員会名	役 名	氏 名	所 属 校 名	単P役職名
健全育成	委員長	開 米 恵	木 造	健全育成委員長
	委員	宮 田 和 也	青 森 西	副 会 長
	委員	永 井 純 一	東 奥 義 塾	副 会 長
	副委員長	大 崎 光 明	八 戸 学 院 光 星	副 会 長
	委員	今 里 美	大 湊 川 内	会 長
	事務局長	長 谷 川 孝 樹	木 造 渉 外	主 任
進路対策	委員長	古 館 至	七 戸	進路対策委員長
	委員	窪 田 真 衣 子	青 森 南	進路対策委員長
	副委員長	金 田 実	弘 前 実 業	副 会 長
	委員	平 島 み ゆ き	八 戸 西	進路対策委員長
	委員	山 田 真 一	五 所 川 原 農 林	副 会 長
	事務局長	小 笠 原 辰 実	七 戸 渉 外	主 任
調査広報	委員長	三 上 智 幸	青 森 明 の 星	調査広報委員長
	委員	棟 方 晃	弘 前 学 院 聖 愛	副 会 長
	副委員長	松 村 茂 信	八 戸 東	調査広報委員長
	委員	河 村 信 男	百 石	調査広報委員長
	委員	平 山 正 子	五 所 川 原 工 業	副 会 長
	事務局長	小 澤 綾 乃	青 森 明 の 星	渉 外 主 任
研 修	委員長	今 井 武	柏 木 農 業	会 長
	副委員長	中 川 め ぐ み	青 森 工 業	研 修 委 員 長
	委員	橋 本 睦 子	八 戸 学 院 光 星	研 修 委 員 長
	委員	山 本 弥 智 世	鯉 ヶ 沢	研 修 委 員 長
	委員	大 場 可 奈 子	大 湊	副 会 長
	事務局長	館 山 昭 廣	柏 木 農 業	渉 外 主 任

平成30年度 役員名簿

役 職 名	氏 名	所 属 校 名	備 考
会 長	中 村 美 津 緒	青 森 西	
	蝦 名 真 希	青 森 明 の 星	東青地区協議会長
	今 井 武	柏 木 農 業	中南地区協議会長
	向 田 秀 美	八 戸 学 院 光 星	三八地区協議会長
	今 廣 樹	五 所 川 原 商 業	西北地区協議会長
	成 田 一 郎	三 本 木 農 業	上十三地区協議会長
	吉 田 錦 一	大 湊	下北むつ地区協議会長
	宋 倉 慎 次	青 森 農 業	県高校長協会推薦
	高 谷 正	三 本 木 農 業	〃
	蝦 名 博	む つ 工 業	〃
	山 本 真	弘 前 学 院 聖 愛	私立高校保護者会推薦
	越 田 宏 治	青 森 東	会長推薦
副 会 長	益 川 毅	三 本 木	〃
	敦 賀 定 彦	青 森 商 業	
	遠 藤 剛	柏 木 農 業	県高校長協会推薦
	明 石 進	八 工 大 第 二	各地区1名
	菊 地 建 一	五 所 川 原 農 林	
	工 藤 清 寿	七 戸	
理 事	沼 尾 冬 樹	十 和 田 西	上十三地区協議会
	飛 内 文 代	北 西 斗	県高校長協会推薦
監 事	開 米 恵	木 造	西北地区協議会
	古 館 至	七 戸	上十三地区協議会
	三 上 智 幸	青 森 明 の 星	東青地区協議会
	今 井 武	柏 木 農 業	中南地区協議会
	問 若 宮 佳 一	八 戸	前会長

青森県高P連事務局

事 務 局 長	千 代 谷 均
事 務 局 次 長	原 田 豊 則
事 務 主 任	今 美 智 留

編集後記

平成30年度青森県高等学校PTA連合会 発足70周年記念十和田大会に参加し、大会テーマ「次代へ伝える ～あおもりの未来を創る子どもたちのために～」の言葉の重みについて考えました。親の生き生きとした姿を見せれば、子どもにとって必ずプラスの影響を与える、PTA活動についても次代へと継承しつつ新たなものを生み出していくことが大事であると実感しました。生徒発表は非常に躍動感あふれるもので、研究協議についても各地区PTAの真摯に子どもたちに向き合う姿には感心するばかりでした。今年度、平成30年度調査広報委員全員で協力し、広報紙「つながり」において様々な情報を発信して参ります。ご協力よろしくお願ひします。

(調査広報委員長 三上 智幸)





平成30年度 収支予算書

■収益の部

(単位：円)

科	目	予算額
経常収益		19,830,000
うち会費収入		19,820,000
うち雑収入		10,000
経常外収益		0
収益の部合計 (a)		19,830,000

■費用の部

(単位：円)

科	目	予算額
経常費用		22,852,000
事業費		19,578,200
うち学校安全普及事業費		600,000
うち共済金等給付事業		9,501,000
その他の事業費		9,477,200
管理費		3,273,800
経常外費用		0
費用の部合計 (b)		22,852,000

(単位：円)

正味財産期首残高	141,339,549
当期増減額(a) - (b)	-3,022,000
正味財産期末残高	138,317,549

平成30年度 事業計画

- ◆ 学校安全の普及充実事業…講習会・研修会の開催や共催、後援
- ◆ 共済金の給付…死亡共済金・後遺障害共済金・負傷共済金・香料
- ◆ その他目的を達成するために必要な事業
安全互助会だより51・52号発行、安全互助会運営のPR活動、各種事業への助成等

平成30年度 役員名簿

■理事・監事

職名	氏名	所属
理事長	大溝 雅 昭	元青森県高等学校PTA連合会顧問
理事	穴倉 慎 次	青森県高等学校長協会会長
理事	安達 健 夫	青森県立青森中央高等学校長
理事	敦賀 定 彦	青森県立青森商業高等学校長
理事	若宮 佳 一	青森県高等学校PTA連合会顧問
常務理事	千代谷 均	青森県高等学校安全互助会事務局長
監事	須崎 正 輝	元青森県立金木高等学校PTA会長
監事	三浦 輝 行	青森明の星短期大学教授

■評議員

職名	氏名	所属
評議員	西澤 ナミ子	元八戸学院光星高等学校PTA会長
評議員	益川 毅	三本木高等学校PTA会長
評議員	太田 清 貴	元青森商業高等学校PTA会長
評議員	太田 宏 暁	東奥義塾高等学校教諭
評議員	下山 美智子	五所川原商業高等学校長
評議員	下山 昌 一	元青森西高等学校渉外主任

平成29年度 事業報告

1 学校安全普及充実事業費	552,284円
(1) 地区協議会 安全教育活動費	252,284円
(2) 青森県高等学校体育連盟	100,000円
(3) 青森県高等学校文化連盟	100,000円
(4) 青森県高P連安全教育活動費	100,000円

2 共済金等給付事業費	8,493,036円
(1) 死亡共済金	0件 0円
(2) 後遺障害共済金	1件 91,000円
(3) 負傷共済金	706件 8,202,036円
(4) 香料	4件 200,000円

3 その他事業費	285,660円
(1) 安全互助会だより49号	56,700円
(2) 安全互助会だより50号	56,700円
(3) 安全互助会の手引き	64,800円
(4) 新入生保護者用リーフレット印刷代	107,460円

青森県高等学校安全互助会加入生徒数	
全日制	33,864名
定時制・特別支援学校	1,138名
通信制	367名
総数	35,369名